

Together

徳島県立穴吹高等学校
人権啓発新聞

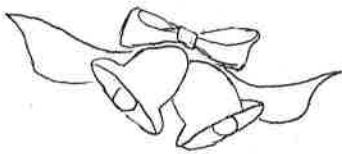
Together

2016年12月22日 発行

ヒューマンライツ部 第2号

2016年ももうすぐ終わろうとしています。
今年にはアメリカの大統領選挙やリオオリンピックなど、国際的にも大きな変化がある年でした。様々な場面で人の強さを実感できる年となったのではないのでしょうか？

今回のTogetherでは9月～12月の人権行事を中心に紹介していきます。これを機に今年一年を振り返り、来年の自分がどんな自分になりたいかをぜひ考えてみてください。



校内人権の日(2学期)

第5回 「高齢者の人権について」

50年～60年後 どのような高齢者になりたいか考え、そのとき、どのような社会であってほしいか考えると、年齢に関係なく、誰もが、自分らしく、自分のしたいことができる社会であってほしいと思った。

第6回 「～夢の実現のために、自分の長所をみがこう～」

私から見た友達の評価とその子自身のエゴグラムはまったく違ったり、その逆もあったので、自分自身を見直すよい機会になった。普段気付けない友達や自分の姿に気付けた。

第7回 「校内人権意見発表を聞いて」

意見発表を聞いて、相手は傷つけないと思って言葉を選ぶのではなく、相手が傷つくと思って言葉を選ぶことや、まわりの人たちに対して常に感謝の気持ちを忘れないことを今日からやっていきたいと思った。

第8回 「ゴグトレに挑戦」

ゴグトレは、「みる・きく・想像する」力を養うトレーニングで、「みる・きく・想像する」力は人間関係づくりやイライラを減らすことにも有効だと知った。それぞれの個性を生かしながらも、集中力や想像力を高めることができるゴグトレをもっとやってみたいと思った。

人権学習ホームルーム活動(2学期)

1年 「差別解消への運動①」

「水平社宣言」を読んで、差別に負け差別をする人々の言いなりになりず、人間として堂々と誇りを持てられるようにという思いが伝わった。

「ネットいじめについて考えよう」

LINEで友達を傷つける発言をし、後悔した。この授業を通し、改めて相手を傷つけることを考えられた。

2年 「障がい者差別について考える」

自分の息子が障がいをもって生まれてきたことを否定し続けている自分を責める父親の姿が印象的だった。しかし、息子は障がいを自分や誰かのために背負って生まれてきたと考え、「そのままいい。それが、うちの子。」と受け止めた父の思いが私たちの心を温かくさせた。

「男女の生き方を考えよう」

男女での考え方の違いや、「男だから」や「女だから」という固定概念があることが分かった。私たちは、違いを認め合ったり、相手を思いやってお互いに相手の良さを尊重することができるようにしたい。

3年 「パートナーはどんな人？権利の熱気球」 「結婚差別について考えよう」

「昔の話だ」と思っていた差別がまだなくなっていない、という悲しい現実がある。

もし、自分の結婚相手が「部落出身」だとしたら両親に話せるでしょうか。偏見を持たずに自分の意志をつらぬきたいと考えた。将来につながる勉強だったので改めて人権について考え直すことができました。

校内人権意見発表会

11月24日(木)、人権意見発表会を行いました。1・2年生のクラス代表6名がすばらしい発表をしてくださいました。印象に残った言葉はありましたか？
この機会に、自分の行動や発言を振り返ってきましょう。

11HR	櫻井 亜須美	「無償の愛でよ」を読んで
12HR	藤島 弓璃圭	傷つく人がいること
13HR	篠原 直樹	ひいおばあちゃんからの手紙
21HR	野口 奈々夏	無意識下の差別
22HR	篠崎 更貢	いつも心にリスペクトを
23HR	佐和 晃考	ボランティア活動で学んだこと



- 差別もなくするためには、みんなが正しい知識を知ることが大切だと思う。
だから、私が今できることは、正しい知識を知り、伝えていくことだと思う。 (1年女子)
- 互いに支え合ったり、差別やいじめに苦しむ人が傷つくことを少しずつでもなくしていけるように実行していきたい。 (1年女子)
- いろいろな人の発表を聞いて、これから自分たちが少しでも良い世界になるように話し合ったり、勉強したりしたことを行動につなげたい。 (1年男子)
- みんなの発表を聞いてたくさんを知ることができ、それを知ったことで人権に対する理解や興味が増えたと思う。これから知り続けていくことが私ができる最善の方法だと思う。 (2年女子)
- 発表を聞いて、私もたくさんできることがあると思った。人の話をしっかり聞いたり、思いやりをもって接したり、誠意をもってあいさつすることほど小さな積み重ね一つ一つを大切にしていきたい。 (2年女子)
- 私に今からできることは、人の良いところを尊敬し、自分のことばかりでなく、他の人のことにも気を配れるよう意識して生活することだと思う。 (3年女子)
- 今日の発表を聞いて、自分も無意識のうちに差別的な発言や行動をしてしまっていたと気付くことができました。今日の経験を生かし、困っている人がいたら助けるなど、意識して取り組もうと思った。 (3年男子)

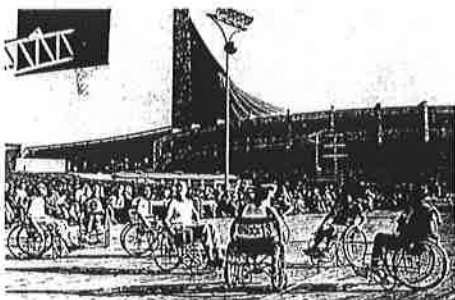


知ろう！パラリンピック！！

(参考HP: 日本財団パラリンピックサポートセンター
TEAM BEYOND TOKYO パラスポーツプロジェクト)

今年はおリンピックイヤーであり、県人選手の活躍もあっておおいに盛り上がり、たりのオリンピックでした。さて、オリンピック終了後、オリンピックと同じ開催都市で行われている「もう1つの(Parallel)+オリンピック(Olympic)」。さかのぼること約70年前、スポーツをリハビリに取り入れていたイギリスのストック・マンデビル病院が、院内で開催した患者によるスポーツ大会が始まりといわれています。1960年ローマオリンピックと同じ年に行われた大会を、後に第一回大会とし、1964年東京大会が第二回大会となりました。

そして2020年、東京にオリンピック、パラリンピックがやります。あらゆる違いを認め合い、一人ひとりの個性が輝く未来のために、アスリートも、観る人も、支える人も、みんなが会場に集い、パラスポーツを盛り上げていきましょう。



1964年 第二回パラリンピック東京大会
世界から約370選手が集まった



バドミントン
東京パラリンピックの新規競技



ワイルチェアラグビー
車いすからボールをかり合う迫力のタックル